

資料 1

令和5年度 社会福祉法人いいたて福社会事業報告書

1. 令和5年度 社会福祉法人いいたて福社会事業報告書
1～ 2ページ

2. 令和5年度 特別養護老人ホームいいたてホーム事業報告書
3～26ページ

ホーム事業報告書（全体）	3～ 8
各家生活報告書（6ユニット）	9～20
医務室事業報告書	21～23
厨房事業報告書	24～26

3. 令和5年度 いいたて在宅介護支援センター指定居宅介護支援事業所事業報告書
27～31ページ

4. 令和5年度 事務室事業報告書
32～33ページ

5. 令和5年度 研修報告（研修一覧）
34～36ページ

令和5年度 社会福祉法人いいたて福社会事業報告書

1. 基本方針について

超高齢化や、時代とともに多様化する福祉ニーズに応えるべく、地域貢献や施設等の開放に取り組み、また、人材確保等においては、職員の育成をしつつ様々な広報活動に取り組み人材確保に努めてきた。

(1) 地域貢献

<ul style="list-style-type: none"> ・ 社宅の一部を「医師」に無償貸与 （昼夜を問わず、地域医療・福祉に取り組んでいる本多医師に対し、活動拠点の居宅として提供）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設内を交流の場として開放 （本年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、利用が少なかったものの、県立医科大生等との交流を実施（実務研修や災害の経験について等）

(2) 職員の質の向上

<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン研修を何時でも受けられるよう会議室の環境を継続（PC機器等の設置）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資格取得の支援の継続 （自由に利用できる部屋を設けると共に、研修費用の支援や勤務体制にも配慮）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員が気兼ねなく相談等ができる相談室を設ける。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己研鑽のためのボランティア休暇を推進

(3) 人材確保

<ul style="list-style-type: none"> ・ 被災地介護施設再開等支援事業補助金を活用し、職員募集のPRグッズ等を配布。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページの更新（適宜）
<ul style="list-style-type: none"> ・ インスタの発信（随時）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報紙の年2回発行

2. 事業内容について

- ・ 理事会、評議員会、監事会、評議員選任・解任委員会の開催状況
理事会年5回、評議員会年2回、監事会年1回開催。

(1) 理事会の開催状況（理事定数6名、監事2名）

回数	開催日	出席(名)		内 容
		理事	監事	
第1回	令和5年 5月31日	5	2	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 令和4年度社会福祉法人いいたて福社会事業報告について 議案第2号 令和4年度社会福祉法人いいたて福社会収支決算について 議案第3号 社会福祉充実残額の算定結果について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福社会理事候補者の推薦について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福社会監事候補者の推薦について 議案第6号 社会福祉法人いいたて福社会評議員の招集について 議案第7号 福祉サービスに関する苦情解決体制に関する第三者委員の選任について 議案第8号 社会福祉法人いいたて福社会給与規則の一部変更について
第2回	6月20日	6	2	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福社会理事長の選任について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福社会業務執行理事の選任について 議案第3号 西棟居室他換気扇更新工事請負契約について

回数	開催日	出席(名)		内 容
		理事	監事	
第3回	令和5年 11月1日	6	2	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福祉会就業規則の一部変更について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福祉会臨時雇用職員管理規則の一部変更について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福祉会給与規則の一部変更について 議案第4号 老人福祉法に基づく特別養護老人ホーム休止認可申請について 議案第5号 老人居宅生活支援事業休止届について
第4回	令和6年 1月19日	6	2	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福祉会理事候補者の推薦について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員候補者の推薦について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員の招集について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員選任・解任委員の招集について 議案第5号 ベッド内蔵型離床センサー付きベッド購入契約について
第5回	令和6年 3月26日	6	1	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 令和5年度社会福祉法人いいたて福祉会収支補正予算について 議案第2号 令和6年度社会福祉法人いいたて福祉会事業計画(案)について 議案第3号 令和6年度社会福祉法人いいたて福祉会収支予算(案)について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会給与規則の一部変更について 議案第5号 特別養護老人ホームいいたてホーム設備機器保守点検委託契約について

(2) 評議員会の開催状況(定数7名)

回数	開催日	出席(名)		内 容
		評議員	監事	
定時	令和5年 6月20日	5	2	議案第1号 令和4年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 議案第2号 令和4年度社会福祉法人いいたて福祉会収支決算について 議案第3号 社会福祉充実残額の算定結果について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会理事の選任について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福祉会監事の選任について
臨時	令和6年 2月1日	6	2	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福祉会理事の選任について

(3) 監事会の開催状況(監事定数2名)

開催日	出席(名)	内 容
令和5年 5月12日	2	令和4年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 令和4年度社会福祉法人いいたて福祉会収支決算について 令和4年度理事会及び評議員会の執行状況について
講評		全体的に適正に処理されている旨の報告あり。

(4) 評議員選任・解任委員会の開催状況(定数3名)

開催日	出席(名)	内 容
令和6年 2月1日	3	社会福祉法人いいたて福祉会評議員の選任について

・役員研修等

コロナ禍からオンライン研修が主となり、参加し易くなったものの、やはり次年度は集合研修の開催に期待したい。

令和5年度 特別養護老人ホームいいたてホーム事業報告

1. 基本方針について

- (1) 家庭の延長と感じられる「居心地の良い」環境づくりとケアを目指し、ハード面では入居者に合わせ居室や共通スペースの配置換え・空調管理を行い、ソフト面では、起床・就寝・食事・入浴時間を個々の生活スタイルに合わせたケアを実施してきました。
- (2) 入居者のニーズを発掘するため、多職種間との連携で定期的なケア会議を開催、ケアの見直しを行ってきました。また、サービスの「質の向上」のため、日々の業務を入居者優先となるよう改善してきました。
- (3) 新人職員が、スムーズに業務に就ける環境と専門知識や技術習得のための研修を実施。更に、認知症ケアはチームケアが重要であることから、職員間で相談し易い環境づくりに努めてきました。また、web研修参加のほか、集合型の職員会議を再開。
- (4) 今年度は、自然災害や新型コロナ感染に伴う、BCP（事業継続計画）のマニュアルを見直し、また、災害時に入居者はもちろん職員の安全も確保できるよう、勉強会や訓練を重ねてきました。
- (5) 面会においては、入居者の安全を第一に考え、ご家族の方の協力も得ながら、対面での面会を開始しました。ご家族等からは「もっと自由な面会を」との希望もありますが、当施設でクラスターが発生した場合、職員の確保が最大の問題であり、更に医療の問題や応援職員の確保ができないことから、今できる範囲で精一杯行ってきました。
- (6) 職員募集に際しては、インスタやホームページ、季刊誌の発行等、幅広い方々に当施設を知って頂く取り組みを行ってきました。

2. 入退居状況・在居期間等

【月別入退居状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居者数	2	1	1	2	0	0	0	1	2	1	1	1	12
退居者数	1	1	0	0	0	1	1	1	2	0	2	1	10
月末在居者数	46	46	47	49	49	48	47	47	47	48	47	47	

【在居期間】

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	計
男性	3人	3人	0人	0人	0人	6人
女性	9人	19人	11人	2人	0人	41人
合計	12人	22人	11人	2人	0人	47人
比率	25.5%	46.8%	23.4%	4.3%	0%	100%

【介護度区分状況（年齢別）】

（平均89.6歳 最高齢者 103歳 最小入居者 63歳）

		64歳 未満	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85～ 89歳	90～ 94歳	95～ 99歳	100 歳～	計
男性	介護3	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	介護4	1人	0人	0人	0人	2人	2人	0人	0人	0人	5人
	介護5	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	1人
	計	1人	0人	0人	1人	2人	2人	0人	0人	0人	6人
介護度平均		4.0	0	0	5.0	4.0	4.0	0	0	0	4.2
女性	介護3	0人	0人	0人	0人	2人	4人	6人	0人	2人	14人
	介護4	0人	0人	0人	0人	1人	3人	8人	1人	0人	13人
	介護5	0人	1人	0人	0人	0人	2人	7人	4人	0人	14人
	計	0人	1人	0人	0人	3人	9人	21人	5人	2人	41人
介護度平均		0	5.0	0	0	3.3	3.8	4.1	4.8	3.0	4.0
全体合計		1人	1人	0人	1人	5人	11人	21人	5人	2人	47人
全体介護度平均		4.0	5	0	5.0	3.6	3.8	4.1	4.8	3.0	4.0

3. 具体的な取り組み

(1) 生活・環境面の充実及びサービスの質の向上

- ① 安心して落ち着ける空間（居室やフロア等）や居場所づくりに努め、個々に合わせた設えを工夫してきました。
- ② 整理整頓・清潔を基に、消臭対策や共用部の清掃・除菌に努め、心地良い日常生活と、一人ひとりの生活習慣、意向の尊重、自ら選択できるような環境づくりをしてきました。

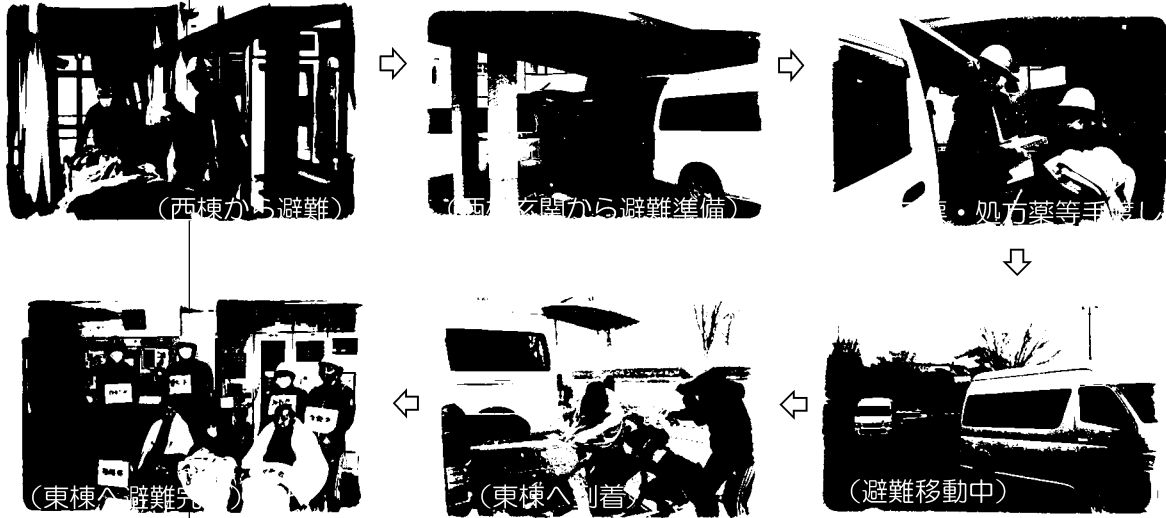
取組	具体的な内容
1. 居心地の良い環境づくり	<p>1-1 外出や交流制限の中でも、生活の中に居心地の良さが感じられる環境づくりに努めてきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入居者の居場所づくり 各家で寛げる場所と食事の場所を入居者に合わせてきました。 ・ 節電等に努めながらも過ごし易い環境づくり エアコン、床暖房、加湿器で室温や湿度の調整。 ・ 臭いのない施設づくり 排泄物を新聞紙で包む処理。また、換気や空気清浄機の活用と、口腔ケアの徹底で居室内の空間消臭ができた。 ・ 寝心地の良いベッド環境づくり 寝具を工夫、夏はクールシート・冬はボアシートを使用。また、就寝前の電気毛布や湯たんぽで眠りにつける寝床づくりを実施。 ・ 感染予防対策 職員の出勤時、検温・手洗い・うがい・手指消毒・マスクの着用。また、手すり等の消毒掃除等を徹底してきました。
2. 生活リズムの継続	<p>2-1 生活習慣と意向を尊重し、就寝や起床時間、食事・入浴・排泄ケアを個別毎に対応してきました。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 食事：食べられるタイミングに合わせ食事提供に努めてきました。特に行事食は、目で楽しみ味わい満足して頂けたと思います。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事介助者が増えたものの、安全に食事が摂れるよう十分な時間配分をしてきました。 ② 排泄：パターンの把握と排泄用品の選定を行ってきました。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水分摂取と排泄の形状や下剤の調整で、スムーズな排泄環境を整えることが出来たと思います。 ・ 意向の尊重と快適な排泄の取り組みについては、入居者の体型等により1人での移乗介助が困難な時、福祉機器の活用を試みたが上手く行かず、結果、介護職員2人で持ち上げての介助となっている。しかし、将来の介護を踏まえ新たな福祉機器の活用を試みたい。 ③ 入浴：体調に合わせた入浴形態と環境を整え、気持ちの良い入浴をできるようにした。（ユニット内にある家族風呂、リフト浴、チェアインバス等を使用） <ul style="list-style-type: none"> ・ お風呂の日を設け、ゆず湯や菖蒲湯等を提供、香りも十分に楽しんで頂けたかと思います。 ・ 体格や皮膚の弱さを考慮し、前向きにリフト浴に取り組んできました。現在も2人の入居者に対応。
3. 家庭的な雰囲気づくり	<p>3-1 積極的に入居者とのコミュニケーションを図ってきました。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 誕生日祝いの継続と家族へのお便り <ul style="list-style-type: none"> ・ 入居者の誕生月に家族へ連絡。繋がりを大切にすると共に、当日

<p>4. 社会とのつながり</p>	<p>は厨房職員手作りのケーキでお祝いをしてきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族へのお便りは年3回。手紙と写真送付し近況を報告。 <p>② 食卓を囲み一緒に食事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策のため、入居者と一緒に食事を摂ることは難しくなったものの、会話などで食事を楽しめる雰囲気づくりに努めてきました。 <p>③ 家族等との面会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リモート面会、若しくはガラス越しの面会でしたが、最低限の条件により対面の面会を実施してきました。 <p>【入居者への面会回数】</p> <table border="1" data-bbox="459 555 1388 645"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>0</th> <th>1~2</th> <th>3~4</th> <th>5~6</th> <th>7~8</th> <th>9~10</th> <th>11~12</th> <th>13以上</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入居者</td> <td>6人</td> <td>8人</td> <td>2人</td> <td>11人</td> <td>7人</td> <td>3人</td> <td>4人</td> <td>6人</td> <td>47人</td> </tr> </tbody> </table> <p>(最多回数は34回の面会がありました)。</p> <p>④ 施設内でも季節を感じられるような工夫をしてきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 畑作り。(収穫時期には入居者も加わり、楽しく調理)その他、だんごさし・柏餅作り・ワラビ作り・フキの皮むき等も行ってきました。 <p>4-1 外出支援等は、間接的ではあるが少しずつ機会を増やしてきました。</p> <p>① 認定こども園や、までい学園、ボランティアとの交流計画等については、コロナ禍により行えませんでした。そうした中でも、花見の時期に村内ドライブ等に出掛けました。</p> <p>② 夏祭り、運動会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で縮小していた夏祭りを西棟玄関前で開催。地元の方々の協力で櫓を組み立てて頂き、また、入居者や職員も浴衣に着替え、盆踊りや模擬店を楽しみました。 	回数	0	1~2	3~4	5~6	7~8	9~10	11~12	13以上	計	入居者	6人	8人	2人	11人	7人	3人	4人	6人	47人
回数	0	1~2	3~4	5~6	7~8	9~10	11~12	13以上	計												
入居者	6人	8人	2人	11人	7人	3人	4人	6人	47人												
<p>5. 重度化ケア</p>	<p>1-1 その人らしい最期を迎えられるよう、入居者やご家族の方の意向を踏まえ支援してきました。(看取り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 残された時間への支援に対し、入居者やご家族の意向に少しでも沿うことができるよう、職員との情報交換を適宜行ってきました。 ・ 最期まで口から食べられる思いを大切に、一口でも好きな物を食べて頂くことができました。 ・ 入浴については、重度化であっても看護師の協力を得、可能な限り行ってきました。 ・ 口腔ケアでは、口腔内の洗浄や喀痰除去等の清潔保持で二次的感染を防いできました。 ・ 寝具は肌触りの良い軽い物とし、好きな音楽をかけ、温かく見守ることができました。 ・ 面会に制限がある中でも、外庭から直接居室に入室し、少しでも家族との時間を過ごして頂けるよう配慮してきました。 																				

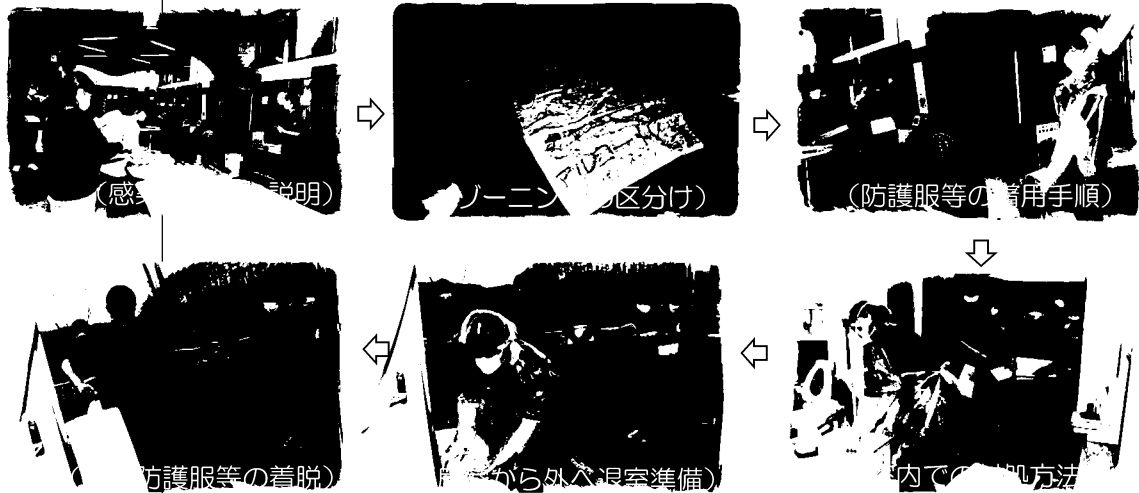
(2) 人材育成

取組	具体的内容
1. 職員育成	1-1 コロナ禍であり、オンライン研修が主となった。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症研修（参加者：1人） ・ ユニットリーダー研修（参加者：1人）、実地研修（参加者：2人） ・ 施設ケアマネ研修（参加者：1人） ・ 介護職員中堅者研修（参加者：1人） ・ ICT導入研修（参加者：1人） ・ 災害時事業継続研修（参加者：3人） ・ 高齢者虐待防止研修（参加者：1人）
2. 会議、委員会の充実	2-1 職員が各委員会に所属し専門的知識を習得、専門及び具体的なケアに取り組めるよう、委員が中心となり改善や向上に繋げてきました。 <ul style="list-style-type: none"> ア) 事故防止対策及び感染防止委員会（年5回開催） イ) ケア向上（褥瘡防止対策含む）委員会（年4回開催） ウ) 設備・環境委員会（年4回開催） エ) 身体拘束・虐待防止委員会（月1回開催） オ) 広報・行事委員会（年6回開催） カ) 安全管理対策委員会（年5回開催） 2-2 会議の充実 <ul style="list-style-type: none"> ア) 家長会議の充実（月1回開催） <ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーとしての自覚を持ち、職員育成にも取り組めるよう意識を高めてきました。（各家の動向や情報の共有化にも努めてきました。） イ) 職員会議の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員が一同に会し、施設内研修を行ってきました。 ウ) 家内ケア会議（月1回） <ul style="list-style-type: none"> ・ 入居者のケアの見直しを看護師、栄養士、調理職員、介護職員が意見を出し合って検討してきました。
3. ケアマネージャーとの連携	3-1 ケアマネージャーとの情報提供を適宜行ってきました。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護サービス記録を共有しサービス計画に反映。 ・ 介護職員でもケアプランが理解できるようケア会議等で説明。
4. 安全性と危機管理	4-1 事故を未然に防ぐための会議や研修、訓練等を実施。 <p>施設内職員研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ア) 身体拘束ゼロの取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体拘束・虐待防止勉強会（5月、8月、11月、1月開催） イ) 人権擁護（認知症ケア）（7月、8月、2月開催） ウ) リスクマネジメント（11月、3月開催） エ) 新型コロナウイルス感染防止対策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 出勤時の検温、手指消毒、うがい、マスク着用の徹底。 ・ 機器導入により空間除菌や空気清浄。テーブルや手すりの除菌。 ・ 感染症マニュアルの見直し。 ・ 感染発生に備え勉強会の開催等。 オ) 避難訓練 <ul style="list-style-type: none"> ・ 火災想定訓練（月1回実施）（自然・原発災害訓練含む） カ) 災害時の対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全管理担当者や設備環境委員会で、施設内の環境・設備・福祉用具等の点検及び補修を行ってきました。 ・ 防災マニュアルの見直し。

キ) 事業継続計画 (BCP) の見直し等 (9月、1月)
 自然災害時等の訓練 年2回 (9月、3月)






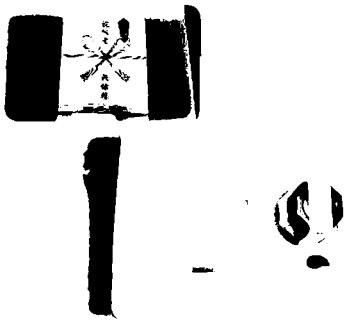

感染症発生時等の訓練 年2回 (7月、2月)



(3) 施設運営

1. 介護報酬の理解	1-1 LIFE を活用したPDCAサイクルの勉強会を開催 ・ 栄養マネジメント、褥瘡マネジメント、排泄支援加算等に係る内容の点検と書類の整備。
2. 入居者を迎える	2-1 個々にあった居室の提供と福祉用具等を選定 ・ 入居前に居室や車いす、自助具について家族の方に説明。
3. 節電への取り組み	3-1 電気料金及び燃料等の高騰に伴う節電 ・ 電気、燃料の節約 床暖房の適度な温度調整とホールエアコンの使用を抑える。 (室温: 夏 27~28℃、冬 22~23℃、湿度: 通年 45%以上) ・ ガス、電気の節約。 洗濯物の自然乾燥に取り組む。(乾燥機の使用頻度を抑える) ・ 電気の節約。 家電や照明等のこまめな消灯

3. 主な年間行事開催

月	内 容	月	内 容
4月	家族会総会、花見交流会(中止)	10月	ドライブ(中止)
5月	花見ドライブ(村内)	11月	芋煮会、ミニ運動会
6月	ドライブ	12月	クリスマス会(各家内)、餅つき
7月	七夕会 (飾りつけ ・各家内)		
8月	ホーム夏祭り(屋外で開催)	1月	新年会
			
9月	敬老会(各家内)	2月	節分、豆まき
			
		3月	ひなまつり(行事食)

1. 家目標と方針について

- (1) 入居者一人ひとりに対する居場所づくりとして、炬燵の設置や個別のチェアを準備することで、入居者間のトラブルの予防や解消に努めることができ、落ち着いて過ごして頂けた。
- (2) 日々、状態の変化に伴い対応方法も変わることで、苦労することもありましたが、多職種間との連携を密にすることで、一丸となって取り組むことが出来ました。また、職員間での情報共有は、些細なことでも申し送り簿に記入することで、特に問題に発展することはなかった。
- (3) ホームで最高齢者（107歳）の方がお亡くなりになりました。普段からの体調変化や、些細な変化にも気を配り、多職種間と連携し、その人らしい最期が迎えられるようお手伝いをしてきましたが、十分にしていれば良かったかと自問自答する日々でもありました。

2. 入居者状況 (R6.3.31 現在)

① 人数


入居者数	8人	最高齢者	94歳	平均年齢	90歳
------	----	------	-----	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	3人	4人	1人	3.8

③ 認知については、軽度1人、中度～重度7人

3. 具体的内容

(1)生活	<p>① 入居者と一緒に行うレクリエーションは、午前には排便コントロールと経管栄養の対応に追われ、ほぼ行うことができなく工夫が必要だった。</p> <p>② トラブル回避も兼ね炬燵を1台増やすことで、好きな洗濯たみ等に集中することができ、落ち着いて過ごせる環境づくりができた。</p> <p>③ 中庭と外の畑に夏野菜を植え、一緒に手入れを行い、共に調理ができたことは何よりの収穫です。</p> <p>④ それぞれの生活歴や環境の違いなどを共有することで、いい信頼関係の構築に繋がった。</p> <p>⑤ 2名の押し車利用者については、生活リハビリを兼ね自分のペースで歩行が維持できるよう、常に付き添い見守ってきました。また、仙骨部に褥瘡ができ易い2名の方については、円座とムートンを使うことで未然に防ぐことができた。</p> <p>⑥ 面会状況 延べ人数：113人（面会最多者13回）</p>	
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------

(2)食事	<p>① 嚥下機能に合わせゼリー食や栄養補助食を選定。飲み込みも確認することで、安全と栄養管理に努めてきました。ただ、誤嚥性肺炎を引き起こしてしまった事例もあり、介助側にも気持ちにゆとりを持つことが大事だと痛感した。</p> <p>② テーブルに季節の花を飾り、気分良く食事が出来るよう努めてきた。</p> <p>③ 食前体操は、早番と遅番で協力し行ってきた。</p> <p>④ 食事形態状況 常食1人、軟食2人、キザミ食1人、経管栄養者4人 食事介助者 一部介助1人</p>
(3)入浴	<p>① 看取りについては、状態に合わせて2人対応で、最期まで安全・安楽に入浴して頂くことが出来たと思います。</p> <p>② 季節にあった菖蒲湯やゆず湯、また、ご当地の温泉の湯花を使うことで、季節感を味わい、温泉に入った気分楽しんで頂けたと思います。</p> <p>③ 入浴時には、全身の観察を行うことはもちろんのこと、トラブルを発見した時は、看護師に報告し治療に努めてきた。また、入浴後に個々に合ったローションを使用しスキンケアに努めてきた。 年間入浴者数（延べ回数：個別浴341回、機械浴316回） 個別浴2人対応での入浴者：2人</p>
(4)排泄	<p>① 排泄チェック表を活用し、尿量や排便の形状・量、また、個々の排便間隔を把握することで体調管理に努めてきた。</p> <p>② 個々に合ったパットやオムツの選定、排泄間隔等を把握し、トイレ介助を行ってきた。</p> <p>③ 排泄後の消臭対策は、こまめに換気を行い、消臭剤も活用してきた。</p> <p>④ オムツを使用されている方でも、職員2人対応で便座に座って頂き、トイレで排便を促すことで、スッキリとした爽快感を感じて頂けたと思います。</p> <p>⑤ 排泄介助内訳 トイレ介助者：2人（一人当たり1日平均7回～8回） オムツ交換者：4人（一人当たり1日平均5回～6回） （オムツ交換者のうち、2人対応でトイレ介助を行う方2人）</p>
(5)認知症ケア	<p>① 些細な情報でも申し送り簿に記し、情報を共有することで、入居者を理解でき、前向きな姿勢でケアに取り組むことが出来た。</p> <p>② 居室で過ごされる方も含め、孤独感を味わうことがないように、テレビやラジカセを活用し、目や耳からの刺激を大切にしてきました。また、フロアで過ごされる方においては、リラックスできるリクライニングの椅子で寛いで頂きました。</p> <p>③ 人のお世話をさせて頂く難しさを改めて学ばせて頂いています。</p>

1. 家目標と方針について

- (1) 入居者との信頼関係を築きながら、一人ひとりの生活が充実したものになるよう家庭的な雰囲気の家づくりを目指してきた。
(一人ひとりに合った声掛けや会話を多く行い、寂しい思いをしないように取り組んできた。)
- (2) 皮膚が弱く、皮下出血等の皮膚トラブルが起きやすい方のケアは、必ず2人対応で体位交換や排泄交換、入浴時には3人介助で細心の注意を払い、職員一丸となり皮膚保護に取り組んでいました。
- (3) 多職種間との情報共有や、職員間での意見交換が出来ていないこともありましたが、今後、意見交換を活発に行い、少しでもケアに反映できるようにしていきたい。
- (4) 生活の場を住み心地の良い環境に保てるよう、整理整頓、掃除や換気、空調管理に努めてきた。



2. 入居者状況 (R6.3.31 現在)

① 人数

入居者数	6人	最高齢者	94歳	平均年齢	85歳
------	----	------	-----	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	3人	2人	1人	3.6

③ 認知については、軽度が2人、中度～重度4人。

3. 具体的内容

(1)生活	<ul style="list-style-type: none"> ① 全体でレクがあまり出来ない中、フロアでも楽しめるビデオ鑑賞や趣味活動ができるよう環境づくりを行ってきた。 ② ベッド上で過ごされている方には多く足を運び、声を掛け、居室環境を整えるなど寂しい思いをしないようにしてきた。 ③ 体調管理に努め、冬季は手や足を暖かく保ち上着を羽織らせてきた。 ④ 足の浮腫みのある方が多いため、マッサージ機の活用やベッド上での安楽な体位保持に努め浮腫み防止に繋げてきた。 ⑤ センサーマットについては、毎回、必要性を検討してきた。 ⑥ 感染対策では、排泄介助後、手洗い・手指消毒を徹底。また、テーブルの消毒も毎回行ってきた。 ⑦ 面会状況 延べ人数：45人（面会最多者12回）
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2)食事	<p>① 食事姿勢を整え、また、床に足をつけ（踏み台の活用等）座位保持の徹底、安定した姿勢でしっかりと食べられるようにしてきた。</p> <p>② 個々に合った自助具や滑り止めを選定、食べ易い環境づくりをしてきた。</p> <p>③ 適宜、食事形態を見直し食べ易い食の提供と誤嚥防止に努めてきた。</p> <p>④ 食前体操（パタカラ体操）に力を入れ、飲み込みや咀嚼がスムーズに行えるよう促してきた。</p> <p>⑤ 食後の口腔ケアをしっかりと行い、嚥下機能の維持に努めてきた。</p> <p>⑥ 食事形態状況 軟食3人、キザミ食1人、ソフト食1人、ゼリー食1人 食事介助者 全介助2人、一部介助1人</p>
(3)入浴	<p>① 保湿剤や入浴剤、入居者に合ったシャンプーを使用することで、スキントラブルを未然に防いできた。</p> <p>② 職員が焦らず、ゆっくりとした入浴時間の提供を行い、好きな音楽や会話をしながら入浴を促してきた。</p> <p>③ 入浴の際、不穏な様子が窺えたときは、本人の好きなことを促し気分よく入浴して頂けるように努めてきた。</p> <p>④ 皮膚トラブル（内出血）を起こさないよう、状況により慎重に2人介助で対応することができた。</p> <p>⑤ 年間入浴者数（延べ回数：個別浴458回、機械浴262回）</p>
(4)排泄	<p>① 尿量と皮膚に合ったパットを選定することで、皮膚トラブルや褥瘡防止に力を入れてきた。</p> <p>② プライバシーの配慮では、排泄交換と気付かれないよう消臭対策（おむつを新聞紙で包み、消臭スプレーをする等）を行ってきた。</p> <p>③ 皮膚の状態を常に確認し把握を怠らないよう努めてきた。</p> <p>④ 排泄介助内訳 トイレ介助者：5人、オムツ交換者：1人、 オムツ使用者からトイレ介助へ移行人数：1人</p>

1. 家目標と方針について

- (1) 個性を生かしながら、ケアの公平性と個別性について考え、一人ひとりに向き合うことに力を入れてきた。また、少しの時間でも寄り添えるよう、同じ目線に立ち、言葉を選びながら会話をしてきたことで笑顔が多く見られるようになってきました。
- (2) 職員間の情報共有に努め、ノートや口頭で申し送りを行ってきたが、言葉の表現によって、受け取り方も違うことに気付き、伝えることの難しさを感じた。それでも、当日気付いたことや、変化をその場限りにしないよう話し合ってきました。
- (3) 認知症状のある方のケアは、日々変化することに戸惑いながらも、多職種間で相談、情報を共有し、個々に合わせた時間や内容で対応できるよう取り組んできました。

2. 入居者状況 (R6.3.31 現在)

① 要介護度と内訳


入居者数	9人	最高齢者	103歳	平均年齢	88歳
------	----	------	------	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	1人	4人	4人	4.3

③ 認知については、軽度が5人、中度～重度4人。

3. 具体的内容

(1)生活	<ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活パターンを把握、個々に合わせた起床や臥床時間を概ね対応できていました。(一人ひとりに寄り添う時間を多くとれば、もっと知ることができ、望むような過ごし方ができたのではないかとと思います。) ② 家料理は頻繁に行えなかったものの、野菜を育て、一緒に収穫や調理することで、美味しく味わうことができました。 ③ お手伝いができる方の役割として、洗濯たたみや金魚のお世話を毎日して頂くことで、生きがいと健康維持にも繋がっていたと思います。 ④ メドマーやマッサージなど日課とし、穏やかに生活して頂くことができました。 ⑤ 職員も一緒にラジオ体操を行うことで、コミュニケーションがとれ、1日笑顔で過ごして頂けることができました。また、天気の良い日に日向ぼっこをすることで気分転換にもなったと思います。 ⑥ 久しぶりの夏祭りで、普段とは違う表情を見ることができ、とても楽しんでいました。次年度も開催できればと思います。 ⑦ 面会状況 延べ人数：114人 (面会回数 34回) 	
(2)食事	<ul style="list-style-type: none"> ① 入居者の体調により食事内容や摂取状況を確認し、変化があった際、見直しや検討を適宜行うことで、食事を美味しく頂けたことと思います。 ② 嚥下状態の変化や経口摂取が難しくなった時、口から「食べたい」との思い 	

	<p>と、安全性を踏まえ「どうしたら食べられるか」等、多職種間と連携を図ってきた。一口でも食べられた時は、満足感を味わって頂けたかなと思います。</p> <p>③ 目の前でメニューを説明、盛り付けをすることにより、目で楽しむ、食欲増進に繋げることができたと思います。</p> <p>④ 食前体操を個々に合わせ行うことで、無理なく経口摂取することができたと思います。</p> <p>⑤ 食事形態状況 常食1人、軟食4人、キザミ食1人、ペースト食1人、ゼリー食1人、経管栄養1人 食事介助者 全介助1人、一部介助1人</p>
(3)入浴	<p>① 季節毎に入浴剤を使用し、本人に合った湯温で対応してきたことで、楽しんで入浴ができたと思います。</p> <p>② 時間に追われることなく、個々に合った時間で入浴をして頂きました。また、特浴から個浴へ変更した方の対応は、2人介助で行うことにより、ゆったりと入浴をして頂けたことと思います。</p> <p>③ 乾燥性皮膚トラブルの原因を看護師と共に考え、連携し対応してきました。また、保湿クリームだけでなく、今後は保湿性の高い入浴剤を使用するなど入浴環境も整えられるようにして行きたいと思います。</p> <p>④ 入浴技術のスキルアップを図る場を設け、様々な入浴方法を考えられるよう努めて行きます。</p> <p>⑤ 年間入浴者数（延べ回数：個別浴 345 回、機械浴 515 回） 機械浴から個浴へ変更：2人</p>
(4)排泄	<p>① 個々に合った尿量チェック等を細目に行い、排泄用品を選定して行くことで、快適に過ごされています。</p> <p>② パットの当て方で異なる対応を要する場合、言葉だけでなく連絡シートや排泄シートを確認するよう周知徹底して行きます。</p> <p>③ 自力でトイレに行ける方には、応援できる声掛けをし、見守りを徹底することで、転倒防止に繋がってきました。</p> <p>④ パット交換を要する方に、トイレ誘導（排便時のみ）を試みたところ、「トイレに座れて良かった。まだできるんだな」との声を聴き、表情も明るくなった様子を見て、改めてトイレでの排泄の大切さを実感することができました。</p> <p>⑤ 排泄介助内訳 トイレ介助者：6人、オムツ交換者：3人 オムツ交換（排便時のみ）からトイレ介助へ移行人数：1人</p>
(5)認知症ケア	<p>① 行動や言動の意味を理解し、発する言葉に否定せず、受け入れる対応をしてきました。</p> <p>② 個々の生活パターン、リズムを把握し一人ひとりにとってのベストなケアを考え、寄り添うことで信頼関係も築け、家族のように過ごすことができたと思います。</p> <p>③ 時間に追われる時もありましたが、職員同士が連携し、入居者に向き合うことで、落ち着きを保ち安心して過ごすことができていたと思います。</p>

1. 家目標と方針について

- (1) 問題点や課題が出た時は、改善策を出し合い、チーム一丸となって取り組んできた。困った時はフォローし合い、不安な時は励まし合えるチームを作っていきたい。
- (2) 入居者の想い(声)を理解しようと努め、声に出せない方には、観察力と洞察力をもって代弁できるような介護職員を目指してきた。
- (3) 認知症の進行、体調の変化等により、今までの意思疎通や介助方法が難しくなった際も、職員一人ひとりが入居者に合わせたケアに心掛けてきた。
- (4) 職員が気づく力を更に身につけ、知識を深めるとともに、小さな変化にも早期対応できるように、家内会議やケア会議での情報共有をしていきたい。

2. 入居者状況 (R6.3.31 現在)

① 人数

入居者数	8人	最高齢者	93歳	平均年齢	90歳
------	----	------	-----	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	3人	1人	4人	4.1

③ 認知については、軽度(自立度Ⅱ)2人、中度～重度(自立度Ⅲ)6人

3. 具体的内容

(1)生活	<p>① 花の手入れ、洗濯物たたみ、漬物作りなどユニット内で入居者が役割を持って生活することで、生きがいや楽しみに繋げることが出来た。</p> <p>② 業務に追われることを理由に、レクリエーションや日々の日課を行うことが出来ないこともあった。しかし、スキマ時間を上手に活用して、少しでも多く入居者に関わることができた。笑顔を引き出すコツも上手くなったように思える。</p> <p>③ 3人の入居者の看取りケアに携わることが出来た。長い間、寝たきり状態が続き、コミュニケーションが取れない方にどのように寄り添い最期までその人らしく居られるのか、考えながらのケアでした。また、コロナ禍にありながらも、家族が何度も面会に足を運んで下さり、残された時間を誰とどのように過ごすのか、私たち職員もそれぞれに考えたものです。</p> <p>④ 「家に帰りたい」と思う入居者に対するケアには、最も時間を割いたと思います。それは誰もが望んでいる気持ちだと思います。思い通りにならない時、どのように気持ちに寄り添っていいのか考えました。家族との繋がりの中で定期的に面会や外出をしたり、職員が聞き役になり気持ちを言葉や手紙にしてもらったり、思いを否定せず受け止めることに努めました。どんな形でも、いつか願いを叶えられるように「帰りたい」という気持ちに寄り添って過ごしていけたらと思いました。</p> <p>⑤ 面会状況 延べ人数：68人(面会最多者13回)</p>
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>(2)食事</p>	<p>① 食前体操の声出しを積極的に行い、機能訓練の意識を持って取り組めた。</p> <p>② 食べたくないという方への食事介助と声掛けに難しさを感じた。また、食べられる時に自分で食べられるよう声掛けしながら無理せず行うように努めた。</p> <p>③ 畑で野菜作りを行い、ユニットで漬物や簡単な調理をして入居者と収穫を喜び、食べることが出来た。</p> <p>④ なるべく自分で食べるように声掛けし、食欲が出るよう見た目や匂いなど五感を刺激しながら、食事を楽しんでもらえるように心掛けた。</p> <p>⑤ 食事形態状況 常食2人、軟食3人、キザミ食2人、ゼリー食1人 食事介助者 全介助1人、一部介助2人、経管栄養者2人</p>
<p>(3)入浴</p>	<p>① 入居者の好きな音楽とお湯の温度で、ゆっくりと入浴してもらえる環境をつくりました。</p> <p>② 関節拘縮が強い方の洗身時には、洗身タオルを手袋タイプに変える等、痛み の軽減に努めながら清潔にすることができた。</p> <p>③ 体調不良時などでも、手浴足浴、清拭等で清潔を保てるように努めた。</p> <p>④ 年間入浴者数（延べ回数：個別浴270回、機械浴430回）</p>
<p>(4)排泄</p>	<p>① 入居者の体調を把握することで、看護師の協力もあり排便コントロールを行うことができた。また、便座に座って頂くことで、その爽快感や喜びを味わってもらえたと思う。2人介助でトイレでの排泄を行うこともしばしばだった。</p> <p>② 漏れや不快な思いをしないためにも個々の排泄アセスメントを行い、パットの選定やパットの当て方、介助方法など様々な角度からアプローチし、常にその人にあった最善の方法を話し合いながら決めていけるように努めてきた。</p> <p>③ 排泄介助内訳 トイレ介助者：5人、オムツ交換者：3人 オムツ使用者からトイレ介助へ移行人数：1人</p>



1. 家目標と方針について

- (1) 入居者の声にしっかり傾聴、個々を尊重し、それらに沿ったケアを提供する難しさは、日々、心身の状態等が変化して行く中で、正直、適切な対応ができたかは疑問でもあった。
- (2) 相手を理解し、柔軟なケアは状況により対応できたこともあったが、どうしても従来の固定概念にとらわれたケア内容となってしまった。今後、もっと柔軟性を身につけるように努めていきたい。
- (3) 円滑に安全なケアを遂行するため「報、連、相」の徹底と、多職種間との情報共有を図るについては、業務に追われていたことを理由に申し送りが出来ていないこともあった。命を預かっている立場から、漏れのない申し送りを徹底していきたい。
- (4) 家庭との延長で生活が継続できるよう、食事の席替えや適した車椅子の選定。また、ベッドで休む時間と離床時間等の生活パターンに配慮。過ごし易い環境を提供してきた。
- (5) 職員間で積極的に意見交換を行い、気づく力を持ち、安全な生活が送れるようヒヤリハットを多く上げて行くことで、アクシデントが減った。

2. 入居者状況 (R6.3.31 現在)

① 人数



入居者数	8人	最高齢者	97歳	平均年齢	91歳
------	----	------	-----	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	2人	3人	3人	4.1

3. 具体的内容

(1)生活	<ul style="list-style-type: none"> ① 感染症予防のため交流制限をしていたなかで、家内では機能低下防止に向けたのレクリエーションを行い機能維持が保たれ笑顔も引き出せた。また、個々で出来る編み物や塗り絵、計算問題、間違い探し、カレンダー作成等も推奨してきた。 ② 天気の良い日は、声掛けにより日光浴や散歩を楽しみ、悪天気の日には家内からホールまで散歩しリハビリを兼ねてきた。 ③ 褥瘡を予防するため、体位交換の時間を増やすと共にムートンやクッション等を活用することで予防に努めてきた。 ④ 血行不良が見られた場合は、その都度、状況に合わせ電気毛布や湯たんぽなどで対応してきた。 ⑤ 面会状況 延べ人数：58人（面会最多者 15回）
(2)食事	<ul style="list-style-type: none"> ① 個々に合わせた食事提供をしてきたが、その日その日で状態が変化するため、この食事内容で本当に良いのか、嚥下は大丈夫なのか等、その対応が大変であると共に、食事介助がいかにか大事かということを再認識しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水分の進みが悪い方には、嗜好を聞きながら進めるよう努めてきた。 ・ 豆乳や牛乳を飲まない方に、ココアに入れて飲んでもらうなど工夫してきた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目覚めた時に合わせ食事を提供することに努めてきた。 ・ キザミ食と軟飯のハーフをお願いし、配膳の見た目などの改善に取り組み、楽しんで食事ができるよう努めてきた。 ・ 常に多職種と情報共有に努め、個々の食事提供にあたることができた。 ・ 誕生日ケーキは食べたいケーキを提供。特にぼた餅ケーキは大変喜ばれていた。 ・ 一部介助の方に対しては、声掛けにより自力摂取できるよう努めてきた。 ・ 器は個々の状態により、陶器から持ち易くすくい易いプラスチック製に変更。 ・ 食事前に座位を整え、声を出して口腔体操を行うよう努めてきた。また、声を出すことが難しい方に頬マッサージ行ってきた。 <p>② 食事形態状況 常食 1 人、軟食 1 人、キザミ食 1 人、キザミ食+軟飯ハーフ 2 人、 補助食品（ゼリー食）2 人、経管栄養 1 人</p> <p>食事介助者 全介助 3 人、一部介助 1 人</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
(3)入浴	<p>① 入浴時だけではなく、冬季は乾燥肌になり易いため、就寝や起床時にも皮膚の保湿に努めてきた。</p> <p>② 体調に合わせて柔軟に入浴方法を変更することに努めてきた。</p> <p>③ 年間入浴者数（延べ回数：個別浴 554 回、機械浴 222 回）</p>
(4)排泄	<p>① 快適な排便を促すため、看護師の協力を得、下剤のコントロール等を行い、6 名の方がトイレで排便を行えた。（排便時間を逆算し、なるべく同じ時間帯に排便が出るよう努めてきた。）</p> <p>② 排泄介助内訳 トイレ介助者 3 人、トイレ 2 人介助者 2 人、オムツ交換者 3 人</p> <p>③ 排便コントロールは難しいため、常に看護師と相談をしながら行ってきた。</p> <p>④ 換気のため、空気の入れ替えや消臭スプレーの使用、毎日の衣類交換、洗濯をしていたが、効果が薄かった所は再度検討して行く。</p>
(5)認知症ケア	<p>① その状態や状況に応じ、伝え方を工夫しても困難な場合があり、改めて信頼関係を築くことは大変だと感じた。</p> <p>② 本人の意見を聞きながら、その日の状態に合わせて過ごす場所を提供することができた。</p> <p>③ 認知能力が低下してきても、自尊心を傷つけない対応に努めてきた。</p>

1. 家目標と方針について

- (1) “食べること”に着眼。美味しく食べ楽しい時間を過ごすことを目標に、目の前での配膳やメニューの説明、嗜好品等の確認を行ってきた結果、美味しく頂けていることと思います。また、このように多くの会話の機会を持つことがコミュニケーションを図る上でも重要なことでした。
- (2) 一人ひとりの生活リズムに応じ、居室やフロア間で自由に過ごせる環境づくり（炬燵やソファの設置、個人スペースの確保）に努めてきました。
- (3) 新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、対面での面会が可能となり、多くの方に足を運んで頂き、楽しい時間を過ごして頂くことができたのではないかと思います。また、次年度は従来のように外出の機会を多く持てればと思っています。
- (4) 家としての特色を大事にするにあたり、介護やそれ以外に関しても“なぜ・どうして”それが必要なのかを知ったうえで仕事ができれば、より良い家づくりが出来るものと感じました。

2. 入居者状況 (R6.3.31 現在)

① 人数

入居者数	7人	最高齢者	102歳	平均年齢	90歳
------	----	------	------	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	2人	5人	0人	3.7

③ 認知については、軽度が2人、中度～重度5人。

3. 具体的内容

(1)生活	<p>① 1名の方の看取りに携わり、改めて人生のターミナルケアの難しさや大切さを学びました。(職員一人ひとりが、自分には何が出来るかを考え、行動に移すことが出来ていたように思います。)</p> <p>② 申し送りをする側、される側、お互いに分からないと言えないよう自ら情報を得、確認した上でケアにあたってきました。</p> <p>③ 感染症予防のため、家族参加による誕生会を行うことが出来なかったが、本人希望のケーキを提供、また、家料理を兼ねた職員手作りのぼた餅ケーキなどで、楽しい思い出づくりができたのではないかと思います。</p> <p>④ 穏やかな口調で話しかけることに心掛けてきましたが、介護側に余裕がなくなると、早口やきつい口調になってしまうことが見受けられたため、互いに注意しながら、どんな時でも穏やかに話すよう意識付けをしてきました。</p> <p>⑤ 絵本を読んだり、金魚の泳ぐ姿やテレビを観たり、花を楽しんだりとその寛ぐ場を設けてきました。</p> <p>⑥ ユニット内や居室の整理整頓、清潔保持、消臭対策に取り組み、臭いのない家に心掛けてきました。</p> <p>⑦ 面会状況 延べ人数：54人(面会最多者12回)</p>
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>(2)食事</p>	<p>① 昨年に引き続き、目の前での配膳に心掛け献立の説明を行いながら嗜好を確認。いつも残してしまう物については、配膳の位置や順番を変えることで、摂取できるようにしてきました。</p> <p>② 五感で楽しめるよう、メニューに合った食器の選定や盛り付けに工夫し、また、安全に食事が出来るよう、本人に合ったテーブルの高さや食べ易い体位に注意してきました。</p> <p>③ 義歯の劣化に気付かず、食事中に破損し誤嚥の危険性があったため、食形態の見直しや、観察の強化も行ってきました。</p> <p>④ ティータイムの飲み物に関しても、個人嗜好を聞いた上で提供（冷たいものが良いのか、温かいのが良いのか、甘い物が欲しいのかなど）。また、会話をする機会が増えたことは、お互いを知る上で有効なものとなりました。</p> <p>⑤ 食事形態状況 軟食5人、超キザミ食1人、ゼリー食1人 食事介助者 全介助1人、一部介助1人</p>
<p>(3)入浴</p>	<p>① 入浴日でも気分が乗らない場合は無理せず曜日の変更を行い、嫌な思いが残らないよう対応することができました。</p> <p>② 好みの湯加減や入浴時間などを確かめた上、入浴介助や羞恥心に配慮した対応ができていました。</p> <p>③ 体調変化時には介護用品や入浴形態を見直し、また、2人対応での介助を行うことで、双方の負担軽減にも繋げてきました。</p> <p>④ 個々に合った入浴剤やボディクリーム等で保湿に心掛け、皮膚トラブルに発展しないよう取り組むことができました。また、入浴時に異常を発見した場合、直ぐに看護師への報告、申し送りも徹底してきました。</p> <p>⑤ 季節を感じられるよう年2回の菖蒲湯、ゆず湯を提供することができ、皆さんに喜んで頂けたと思います。</p> <p>⑥ 年間入浴者数（延べ回数：個別浴624回、機械浴208回）</p>
<p>(4)排泄</p>	<p>① 職員間の申し送りや、看護師の指示のもと下剤の調整、食物繊維やオリーブオイルを用いることでスムーズな排便コントロールに努めてきました。また、立位が難しい方についても可能な限り一日一回は便座に座って頂くことにより、排尿や排便で得られる爽快感を実感できたことと思います。</p> <p>② 羞恥心への配慮に心掛け、また、声の掛け方や排泄チェック表を活用することでスムーズなトイレ介助や排泄交換に繋がられた。漏れなどが生じた場合、どのように漏れてしまったのかを検証し、パットの選定や時間帯の見直しを適宜に行ってきました。</p> <p>③ 消臭対策については、職員同士が互いに気付くことにより防げました。</p> <p>④ 排泄介助内訳 トイレ一部介助者：3人 一日平均8回 トイレ全介助者：2人 一日平均3～4回（トイレ）、他2回（ベット上） 2人対応でのトイレ介助者：1人 一日1回、他5回（ベット上） ベッド上での交換者：1人 1日5回程度 オムツ使用者からトイレ一部介助へ移行人数：1人</p>




1. 年間目標について

- (1) 積極的に入居者とかかわり、“いつもと違う”と云うことに気付ける看護師になれるよう、観察力やアセスメント力に注視してきた。
- (2) 感染症対策については、これまで同様、情報や通知等を漏れなく収集し、知り得た情報は適宜現場に周知することを徹底、感染防止に努めてきた。また、それらに係る研修会へ積極的に参加してきた。
- (3) 持病があっても健やかで快適な毎日が送れるよう、苦痛を取り除き、「して欲しいこととは何なのか」を念頭に支援してきた。
- (4) 終末期においても施設生活が安心して送れるよう、多職種間との協働体制を整え、必要とされる知識や技術についてとともに学習し、最期まで寄り添ってきた。
- (5) 職員の健康管理にも留意し、定期健診は基より個別の相談などにも対応できるよう専門知識の向上と時節に合った管理指導に努めてきた。

2. 入居者及び職員の健康管理について

<p>健康管理について (入居者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 健康診断 令和5年5月1日、11月6日 入居者45名受診、内有所見者35名。要精検者については診察時に確認している。 ➢ 国が定めるところの新型コロナワクチン接種への取り組みは、保健師の指示の下、あづま脳神経外科チームにより執り行われた。名簿の作成から手順、当日の采配を担った。 家族への連絡、同意確認、考えられる副反応については事前に電話連絡で了承を得る。(令和5年5月8日より感染症法上の位置づけが、5類感染症に移行) ➢ 入居者の新型コロナ罹患患者及び、インフルエンザ罹患患者はゼロであった。 ➢ 新型コロナウィルス感染症が5類感染症に移行したが、制限される事態が生じた際には、必ず家族へ一報入れ、解除の時も近況と共に面会の案内など報告している。 ➢ 抗原検査 延べ人数52名に検査施行
<p>職員の体調管理について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 介護職員の平均年齢も高く、柔軟性と筋力の低下が目立ち、体調不良を訴える職員が目立っている。 ➢ 腰痛対策については、予防法と介護技術の修得及び、福祉用具の購入(個人購入も含め)腰部にかかる負担軽減に努めた。 ➢ 職員のインフルエンザ罹患患者は2名。新型コロナについては罹患患者9名を確認。が、これまでの知識を生かしたことで感染源の拡散には至らなかった。定められた隔離期間を経過し、医師の指示の下、抗原検査陰性を確認後、復帰している。 ➢ 新型コロナワクチン接種の取り組み、上記、入居者と同様に実施。 ➢ 同居家族に感染している職員については、出勤前に抗原検査キットにて検査。陰性を確認後、出勤とした。 ➢ 抗原検査 延べ数 11名に検査施行
<p>健康診断について (職員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 健康診断 1回目 令和5年5月1日 45名が受診。 2回目(夜勤に従事する職員のみ) 令和5年11月6日、23名が受診。共に検診率100% 施設外での健診を受けた職員については、結果の写しを医務室管理とした。

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 職員の3分の1が再雇用となっている。についてはその殆どが何らかの慢性疾患があり、内服薬の処方を受けている。他、それぞれ指摘された事項について相談と病院受診の必要性を説き、対応している。 ➤ 腰痛検査（年2回）については、問診票で調査。半数近くは接骨院などに通院しているのが実情。 “総合的に心配なしと判断”という結果が殆どであった。 ➤ 体調不良にて入院、自宅療養を余儀なくされた職員は1名いたが、医療機関の定めた休養を経て復帰に至る。
健康教育について	<ul style="list-style-type: none"> ➤ オンライン研修のほか、感染予防に努めたうえで外部での研修も行った。 ➤ 自身の体調管理については個別に相談を受けるなど、健康に関する関心を高めてもらえるよう努めた。 ➤ 感染症委員会（BCP）には固定した看護師が就き、施設内研修として年に2度開催している。 5月には吐物処理（演習の実施）、明けて年2月には感染者発生時の対応を考え、そのゾーニングの方法、物品保管場所の確認をデイスカッションしながら行った。 また、その都度シミュレーションを取り入れ、多職種間で共有できるようにした。 
受診について	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 救急車搬送は1件、介護と看護間の連携と情報を共有することで、比較的速やかな対応ができた。（手遅れという状態は避けられた） ➤ 重症度の高い入居者についても主治医の指示の下、家族への連絡を密にするなど信頼関係を築くことができた。 ➤ 診療については、いいたてクリニックから毎週火曜日に回診と定時薬の処方を受けていた。慢性疾患のみならず、臨時薬や点滴の処方もあり、施設内で寛解できたことは何よりであった。

3. 褥瘡対策について

皮膚トラブルの予防	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 早期発見の重要性を周知する。また、速やかな報告が重度化を防ぐことに繋がることも付け加え指示できた。 ➤ 皮膚トラブルがもたらす2次的疾患の特性については、各家会議に参加することで知識を広めることができた。 ➤ 長年の課題であったスキンテア（皮膚が薄くなりほんの少しの刺激でも裂創や皮下出血を起こしやすい）への対応として『アルギーナ』に代えて摂取試みをした。効果が表れ、駆血帯を巻いても内出血は起こらなかった。 ➤ 除圧マット・ムートン・ロンボクッションをはじめとする体圧分散用具の導入をしてきたことで終末期に於いても褥瘡はゼロであった。 ➤ 栄養の大事さ、経口摂取がもたらす効果については適宜ケア会議などで話し合い、関心を深めていった。 ➤ 基礎疾患があり抗凝固剤の処方を受けている利用者については、その内容も周知し、皮膚に与える影響についても指示できた。 ➤ 看護師間で検討し、保護剤や被覆材の選択については互いの情報を共有するにとどまった。次年度は開催される勉強会などに積極的に取り組んでいきたい。
-----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4. 終末期ケアについて

看取りについて	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「慣れ親しんだホームで最期を」と希望する入居者や家族が多く、10名の方が施設内の自分の居室で永眠されている。 ➤ 感染予防策として限られた面会の中、最期の面会だけは寄り添うことを可能とした。一人で逝かせたくないという職員の思いからでもあった。そして、できるだけ悔いが残らないように配慮することで信頼関係を継続できた。 ➤ 終末期を考慮し、事務・厨房・介護・看護の全スタッフで関わる事ができた。 ➤ 主治医である本田医師には毎週火曜日の定期診療に加え、深夜早朝にもかかわらず対応していただき、最期の確認と家族への説明をして頂いた。
---------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5. 予防接種

【新型コロナウイルスワクチン接種】

6月1日		11月9日		※ 入居者の家族意向あり
6回目	職員 44名 入居者 44名	7回目	職員 45名 入居者 45名	

※上記は施設内で接種を行い、時期をずらしての接種はいちばん館にて3名行っている。
 ※副反応については、おおむね熱発のみ。呼吸困難などの重症者はゼロ。

【インフルエンザ予防接種】

11月26日 入居者45名 職員47名

施設内で接種。副反応者なし。(2名の入居者については、家族希望により非接種)

6. 通院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
うめだ泌尿器科	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
あづま脳外	0	0	0	1	2	0	1	1	0	1	1	1	8
いいたてクリニック	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	3
済生会川俣	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
くまがみ歯科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
マルイ眼科	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	4
府野歯科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
公立藤田総合病院	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
鈴木歯科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
南相馬市立病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大町病院	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
延人数	0	1	2	3	3	2	2	3	1	2	2	3	24名

7. 入院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
あづま脳外科実日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	10日
大町病院実日数	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	17日
実人数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2名

令和5年度 厨房事業報告書

1. 基本方針

「一人ひとりに寄り添い、食べたい想いを叶える食事を目指して」を掲げ、楽しみの一つでもある食事を通し、穏やかな暮らしの中で“笑顔”を引き出せるような食事の提供に努めてきました。

2. 実施内容

(1) 年間実施食数

食 種 食 数	経口食	経管栄養	職員食	検食	家族食
	年間食数	45,654	5,301	9,390	1,098
1ヶ月平均	3,805	442	783	92	
1日平均	127	15	26	3	
年間総食数	61,443 食				

(2) 年間食材費

食 材 費	特 養
平 均	1人1日 885円
食材費総額	17,804,030円

(3) 1日平均食事栄養量

栄 養 量	熱 量	たんぱく質	脂 質	塩 分	炭水化物
特 養	1,417kcal	59.7g	32g	6.5g	268g

(4) 栄養ケアマネジメント

対象者	対象者	実施期間	見直し期間
特 養	入居者全員	通年	3ヶ月。(但し、食事形態に変更があった場合は、その都度随時見直し対応)
(令和6年3月31日現在)			
アセスメント結果 入居者 47名	低リスク (問題ない者) 21名	中リスク (瘦傾向・経管栄養者) 23名	高リスク (食事中止、点滴等) 3名

(5) 食事形態

入居者47名(令和6年3月31日現在)						
軟食	キザミ食	ソフト食	ペースト食	ゼリー食	経管栄養	食事中止、点滴等
22名	8名	2名	0名	5名	7名	3名

3. 年間実施行事食

月	行事	月	行事	月	行事
4	花見弁当	8	お盆、納涼祭	12	クリスマス会、餅つき、大晦日
5	母の日、柏餅作り	9	敬老会、秋彼岸	1	新年会、七草、小正月
6	父の日	10	開所記念日	2	節分
7	七夕会、土用の丑	11	芋煮会	3	ひな祭り、非常食訓練、春彼岸

4. 出張料理(各家1回、年6回実施)

実施日	家 名	内 容	実施日	家 名	内 容
5.23	やすらぎ	ふき炒め煮	10.24	せせらぎ	ハンバーグ
6.20	だんらん	ギョウザ	11.28	ぬくもり	たこ焼
7.25	ひだまり	みそ芋	3.30	こもれび	南瓜そぼろあんかけ

5. 具体的な内容

① 美味しい料理、好きな物を食べたい

- 好きな物を提供することで、食べるきっかけをつくれるよう取り組んできた。次年度は、出張料理のバリエーションを増やし、リクエスト食にも取り組み、食量アップに繋げたい。
- 個人の嗜好と状態を把握し、メニューに繋げることで食欲も増し残量も減ってきた。
今後、LIFEや栄養ケアマネジメント踏まえ、多職種協働でより良い食事の提供に取り組んでいきたい。また、LIFEと連動させ栄養ケアマネジメントも実践してきた。

② 見た目にも美味しそうな料理が食べたい

- 口から食べて頂くことを大切に、こまかく刻んだキザミ食を立体的に再形成、トッピングなどで彩りした盛り付けで、見た目を工夫してきた。(見た目は大切であり、以前より食欲も増し青菜類副食の残食も減っている。)
- 献立がパターン化しがちだった点を反省し、今後はメニューの変化が感じられるよう工夫して行く。
- レシピマニュアル作成を進めることで、誰でも混乱なく調理スキルを高めることができ、作業効率等も上がっている。次年度も継続して行く。

③ 楽しく食べたい

<行事食>

- 新メニューも入れながら季節を感じられる行事食で、ワクワクして頂けるよう心掛けてきた。これからも旬の食材を使い特別感を感じられる料理を考えていく。(SNS等も活用し、共に勉強しながら取り組んでいきたい。)
- 行事の度、盛り付けなどに拘り、見た目も綺麗に提供できたと思うが、一方では昼食提供時間に遅れたこともあったことから、段取りの見直しが必要であると共に、作業効率も上げていきたい。



<誕生日会>

- 担当者がそれぞれ勉強し、低カロリーのケーキや、シュークリームを作り、また、デコレーションや立体的な盛り付け等で魅せ方の工夫にも挑戦してきた。このことから皆さんに喜んで頂いており、それが職員の遣り甲斐にも繋がっています。これからも出来る範囲で希望にそえるケーキを作って行きたいと思います。



<出張料理>

- 感染対策をしながら、各家へ出向き入居者と一緒に調理を行った。
手ぬぐいをほっかぶりして、包丁を握り、野菜を切りながら昔話にも花が咲き、とても生き生きした表情でした。一緒に作っている自分達も嬉しくなりました。次年度は、更に内容を充実させながら家庭的な雰囲気を入居者と一緒に楽しみたい。

<p><多職種間との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> 直接、話を聞きながらお互いにやりたいことを理解し、連携も取れてきている。ただ、食事内容変更などの確認不足があったため、今後は正確な情報を共有し迅速に対応して行きたい。
<p>④ 食べやすい料理でスムーズに食べたい</p> <ul style="list-style-type: none"> 食事の様子やケア会議など参考に、一人ひとりの状態に合った食事形態に努めてきた。また、軟食やキザミ食、ソフト食など、見た目にも配慮しながら食べやすく柔らかい食事提供を試行しつつ確認していく。 塩分濃度も測定しながら、減塩でも美味しく食べられるよう取り組んできた。 栄養補助食品類も活用、少量でも負担なく栄養が摂れるよう多職種と連携してきた。 <p>今後も、直営給食ならではの柔軟な対応で、出来立ての美味しさを味わって頂けるよう努めて行きたい。</p>
<p>⑤ 安心、安全な物を食べたい</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ以外にもインフルエンザなど、感染症リスクは変わらないため、これからも衛生管理を徹底し、食中毒予防や各種感染症予防に努めて行きたい。 食べやすい調理方法とスムーズなオペレーションについては今後も模索して行く。 真空パックで作業の効率化や食材の有効活用（SDGs）、非常食の活用（BCP）で、災害対応に備え、食べやすい形状で提供できる部分は今後も活かして行く。 物価高騰が今後も続く予想されるため、食材の見直しや有効活用でコスト削減に努めながらも、安全な食材確保に努めて行く。
<p>⑥ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害非常時に備えた食料等の備蓄と期限管理、非常食訓練の実施 非常時備蓄：70名、7日分（食料、飲料水、栄養食品、使い捨て食器等備品類） 期限管理：非常食品一覧表作成し管理、順次献立に取り入れ活用 非常食訓練：3月21日実施 施設総合防災訓練に参加、マニュアル再確認

6. 一年をふり返って

- 新しいメニューの提案が少なかったため、次年度はもう少し挑戦して行きたい。
- マニュアル作りも進んでいることから、次年度はマニュアルを完成させる。
- 夏まつり（納涼祭）では、久しぶりに大人数で賑やかに開催でき良かった。次年度は一般の方も入れ盛んにできればと思います。
- 職員の体調管理や仕事内容について、職員に声掛け等で事前に心身の状態を把握しておかなければ、少人数体制の中での勤務変更が難しく、とても大切なことだと改めて感じました。
- 職員体制が変わり、思い通りに進まない時もあったが、今までの食事サービスを継続するため、その都度、業務を見直すなど忙しいながらも充実した一年だった。また、少人数だからこそ業務内容を把握し、前倒しで進めるなど、皆でカバーし合い乗り越えることで団結心も強まったように思います。
 また、食事提供時においても、多職種の職員に協力してもらいとても助かった。介護の仕事は支え合って成り立っていることを実感。
- 皆の「美味しかった。ありがとうね。」の言葉に、仕事が忙しくても気持ちも盛り上がり、また頑張ろうと励みになっています。これからも共に支え合い寄り添いながら食べる人の気持ちを一番に考えて取り組んで行きたい。

令和5年度 いいたて在宅介護支援センター
指定居宅介護支援事業所事業報告書

1. 基本方針について

介護保険の基本理念である「高齢者の自己決定権の尊厳」「自分らしい生活の継続」及び「自立支援」を基本とし、ご利用者やご家族の意向を踏まえ、自立支援に向けた居宅サービス計画を、多種多様な事業者や関係機関と連携し作成してきた。また、避難先等でも家族との繋がりが継続できるような支援を行ってきました。

(1) 信頼関係の構築について

ケアプランを立案するにあたり、ご利用者やご家族との信頼関係を得るためにコミュニケーションを図り、避難先の環境把握に努めサービス事業者とも連携を密にし、迅速な対応を目指してきました。

(2) 課題を正確に捉えるについて

生活環境の変化やご利用者やご家族の抱える心配ごとや不安な点を捉えるため、予測される課題についても、事前に検討を行ってきました。

(3) 情報提供について

ご利用者やご家族が必要としている、介護保険制度を含めた様々な情報を提供、利用できるサービスや避難先の地域資源活用等についても情報提供を行ってきました。

(4) モニタリングを行うについて

常に状況を把握し、状態にあった支援が提供できるよう努めてきた。モニタリングについては訪問以外にも、電話などでの相談や状況把握など出来る限りの活動を行ってきました。

(5) ご利用者の立場に立つについて

常に、ご利用者やご家族の立場に立ち、対応することに努めてきました。

『評価と課題』

サービス提供事業者や関係機関等との連絡体制を徹底し、情報の共有を図り、身体状況の変化、生活状況及び家族の健康状態等の把握を行い、より適切な対応ができるように努めてきました。

今後、個々の介護保険給付サービス等の適正化を図っていくことも必要となってくると思われます。

2. 具体的な施策について

《ケアマネジメントの充実》

(1) アセスメント（課題分析）について

ご利用者及びご家族の希望等を把握し、解決すべき課題や日常生活に対する可能性を抽出し、それらに基づく目標を導き、また、得られた情報はケアマネジメントの中核とし、状態像を十分に把握してきました。

(2) サービス担当者会議（ケアカンファレンス）について

ご利用者やご家族のほか、サービス提供事業所が参加することにより、生活への希望や課題を直接会って確認することで、ケアチーム全員が思いを共有できると共に、ご利用者やご家族に安心感を持てるようにしてきました。

(3) モニタリング（サービス実施状況の把握及び評価）について

モニタリングは、ご利用者に対する継続的なアセスメントでもあり、ご利用者やご家族の希望や苦情を、具体的に口に出せるような関係を築いていくと共に、サービスの実施状況も確認してきました。

(4) 居宅サービス計画の見直し（再アセスメント）について

モニタリングの結果から、変更の必要性が生じた時には、内容を確認し利用者の状態の変化及びニーズを把握し見直してきました。

(5) 給付管理について

サービス提供事業者からサービスの実績報告を受け、内容を確認し「給付管理票」を作成し翌月10日までに県の国民健康保険団体連合会に提出してきました。

《給付管理請求一覧》

月別	件数	介護報酬額	月別	件数	介護報酬額
4月	47件	660,590円	10月	46件	633,380円
5月	49件	693,910円	11月	43件	591,270円
6月	50件	687,570円	12月	41件	564,110円
7月	48件	659,120円	1月	39件	535,660円
8月	48件	664,120円	2月	41件	564,400円
9月	48件	673,830円	3月	39件	532,660円
合 計			539件 7,460,620円		

『評価と課題』

サービス提供事業所との連絡調整を密に行い、状況に応じた適正なサービス利用に向け調整を行っています。県内の介護保険サービス提供事業者は、慢性的な人員不足状態が続いている状況のほか、引き続き新型コロナウイルス感染予防対策を徹底しながらサービス利用を実施している状況にあります。

今後ご利用者やご家族の希望を受け入れながら、給付サービスの適正化を図り、各種事業所との連絡調整を行って行きたいと思えます。

3. 重点事業目標

(1) 自然災害発生時の業務継続計画（BCP）作成について

- ・ 平時からの地域の避難方法や避難所情報の把握。
- ・ 各事業所が定める基準について、事前に情報の収集の検討。
- ・ 災害発生時の対応についての情報収集方法や連絡調整の検討。

『評価と課題』

業務継続計画については、関係機関や行政との情報共有を重ね、業務継続計画の作成及び修正を重ねており、より良いマニュアルに近づけて行きたいと思っています。

(2) 災害時リスク・アセスメントシートの作成について

- ・ 災害時の課題を整理し、医療機関や居住対策、避難支援等を検討。
- ・ 優先的に避難を要するご利用者や、安否確認を優先するご利用者の検討。

『評価と課題』

ご家族の状況変化により変わることも踏まえ、難しい面もあるが、課題等を整理しながら、今後も関係機関との情報共有を重ね、避難等の計画に繋げて行きたいと思えます。

(3) 新型コロナウイルス感染症に係る対応について

- ・ ご利用者及びご家族に対し、感染症予防方法等について情報を提供してきました。
- ・ 感染の不安から、サービス利用を控えているご利用者に対し、心身の状況確認を行い各サービス事業者と連携し安心してサービスが利用できる環境づくりに努めてきました。

『評価と課題』

ご利用者及びご家族、また、同居家族以外の家族に対しても、各サービス提供事業者を中心に感染予防について啓発を引き続き努めるも、過度に神経質になることなく、落ち着いた行動を促してきました。

(4) 利用者及び家族に対し、居住区域の福祉サービス情報提供について

- 希望するサービスを把握し、実際に居住する地域で対応可能なサービスについて、介護保険サービス以外のインフォーマルサービスを含め情報提供を行ってきました。

『評価と課題』

居住地域ごとに、サービスの種類などの把握を行い、ご利用者やご家族に適していると思われるサービスについて、適宜、情報提供を行うことができました。

(5) 毎月のモニタリング以外でも常時の状態把握について

- サービス提供事業所や医療機関等との、連絡調整による状況確認を行うことにより本人の状態や家族の状況などの把握を行ってきた。

《訪問活動内容と訪問件数》

月別	契約 アセスメント	モニタリング	サービス担当者会議 カンファレンス	サービス調整 申請代行など
4月	1件	48件	5件	13件
5月	6件	43件	11件	14件
6月	2件	47件	5件	9件
7月	4件	49件	3件	4件
8月	2件	60件	5件	12件
9月	0件	54件	4件	8件
10月	1件	51件	7件	10件
11月	1件	47件	7件	8件
12月	0件	43件	4件	4件
1月	1件	42件	10件	16件
2月	4件	44件	7件	11件
3月	2件	40件	1件	19件
合計	24件	568件	69件	128件

『評価と課題』

定期的な訪問活動のほかにも、関係機関との連携を図り、ご利用者や家族への支援活動を随時行ってきた。今後も継続的な支援は必要と思われる。

(6) サービス利用事業所からの情報収集について

- 利用者及び家族の状況について、直接接する機会の多いサービス提供事業所からの情報を元に、状況に適した支援を行う事が出来た。

『評価と課題』

状況を早く把握できることで、状況に応じた支援活動が出来たことには評価できる。常時情報の収集により問題の早期発見による早期解決を図りたい。

(7) 医療機関との連携について

- 医療機関との連携強化のため、入退院時の情報共有のための相双地圏域と県北圏域双方の入退院時調整ルールに基づき、1週間以内に情報を作成提出し、其々の医療機関と利用者の情報について共有を図ってきた。
- 村内に常駐する医師と訪問看護との連携を図る事により、利用者の情報についてこれまで以上に共有することが出来た。

『評価と課題』

入退院時調整ルールについては、運用が定着し関係機関に理解は出来ているようになっており、今後も継続した活用が施行されると思われる。また、医師がそばにいるという安心感は、ご利用者及び家族をはじめ、支援する介護支援専門員にも安心感があり、心強く感じている。

(8) 職員間の情報交換、課題の共有、相談業務の活性化を図るについて

- それぞれが持っている情報を共有する事によって、互いのケアマネジメント力の向上を目的とし実施してきた。

『評価と課題』

情報の共有によって知識の向上や技術の向上に一層努める必要がある。

(9) 要介護認定調査の実施。

- ・ 飯舘村の委託を受け、認定の更新を希望する方の要介護認定調査を実施してきた。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅調査	2件	5件	2件	1件	4件	5件	5件	3件	3件	5件	1件	2件	38件
施設調査	4件	2件	3件	5件	2件	0件	1件	2件	4件	1件	1件	4件	29件
合計	6件	7件	5件	6件	6件	5件	6件	5件	7件	6件	2件	6件	67件

『評価と課題』

事前の連絡調整を行う事で、遅滞することなく認定調査を行うことができた。介護認定更新の目的が明確でないものもあると感じられた。

4. 介護支援専門員の資質・専門性の向上について

(1) 専門知識及び技術向上に努めてきた。

研修会に参加し、周知徹底に努めてきた。

- ・ 原町方部介護支援専門員連絡協議会への参加
- ・ 主任介護支援専門員更新研修 6月から8月まで
1日7時間程度のリモート研修 4日間
- ・ 飯舘村地域ケア推進会議への参加
- ・ 飯舘村地域包括支援センター運営協議会へ委員としての参加
- ・ 福島県介護支援専門員協会主催の主任介護支援専門員研修の講師助手

(2) 不満や苦情があれば、迅速かつ適切な対応が図れるように努めてきた。

- ・ 訪問時本人や家族の不安や不満等について確認し、サービス事業所への報告や改善を促しながら、質の向上に取り組んできた。

(3) 秘密保持厳守、及び個人情報の取り扱いを適正に行ってきた。

- ・ 個人情報等の取り扱いについて慎重に対応するよう取り組んできた。

(4) 困難事例ケース検討、及び新規ケースの情報の共有することで、事業所内で依頼ケースのケアに取り組んできた。

- ・ 担当者が詳細な情報を報告し、情報を共有出来るよう取り組んできた。

『評価と課題』

新型コロナウイルス感染予防のため、研修会の開催方法の多くがリモート研修に変更となったが、資質及び専門性の向上に努めてきた。

今年度については、研修を受ける立場だけでなく、研修会の中心講師を側面から支えていく立場のファシリテーターに2名の主任介護支援専門員が参加した。

5. 在宅介護への支援について

(1) 介護保険制度及びサービス内容の周知を行ってきた。

- ・ サービス利用については、ご利用者のニーズに合わせ、それぞれの居住地で希望するサービスを提供できるよう取り組んできた。

(2) 介護方法及び社会資源の利用についての周知を行ってきた。

- ・ 介護に関わるアドバイス、認知症利用者等への対応の仕方など行ってきた。
居住地での利用可能な社会資源について説明を行ってきた。

『評価と課題』

当事業所契約者の7割以上が村内在住で、在宅サービスを利用している状況である。村内のサービス利用においては、訪問看護と福祉用具利用は問題なく対応が可能となっているが、その他の訪問介護や訪問入浴、通所介護については、未だ川俣町を中心に近隣自治体の事業所に条件付きで依存している状況で、サービス利用がご利用者や家族の希望通りにいかない状況が続いています。

在宅サービスについては、その時々で需要が増減する傾向にあり、決して事業収益が

見込めるものではないと認知しておりますが、無くとも良い介護サービスなどはないと思っています。今後、行政と協力・連携し、“住民が高齢になっても安心して生活できる”方法やサービスを構築する必要があると思われれます。

6. 各関係機関との連携の強化

(1) 地域包括支援センターを始め、各関係機関との連携を密にし、ニーズに沿ったケアマネジメントが行えるよう取り組んできた。

- ・ 他市町関係機関との連携を行いながら、ケアマネジメントに反映出来る様に取り組んできた。



(2) 困難事例の検討と改善について

- ・ 困難事例については、本人や家族はもちろんの事、地域包括支援センターや各市町のサービス提供事業者とも連携を図り、改善に向けて取り組んできた。

(3) 地域ケア会議への参加

- ・ 地域ケア会議に出席し、各種機関が抱える困難な課題や解決方法などについて意見の交換を行い、情報の共有を行ってきた。

『評価と課題』

居住地の各種サービス提供事業所など関係機関とも連携して支援できたことは、評価できるものと感じています。

1. 基本方針

2024年の介護保険法改正、また、電子帳簿保存法（所得税法）、インボイス制度（消費税法）施行に向け、情報を収集し対応すべきものは迅速に準備してきました。

また、人材不足が法人運営を困難なものにしていることから、人材確保のための勉強会（特殊技能制度の検討）や環境整備等についても取り組んできました。

2. 具体的な内容

（1）介護保険法改正に伴う情報収集

施行日からスムーズに運営できるよう、料金の見直しや確認を行ってきたと共に、3月11日に施設利用契約者に対しても説明周知を行ってきた。

（2）電子帳簿保存法・インボイス制度

新たな制度（情電子帳簿保存法（所得税法）及びインボイス制度（消費税法））は、収益事業を実施しており、尚且つ、収益が1千万以上の事業所が対応のため、当法人は適用外。

（3）過去の書類の点検と見直し

文書取扱規程による文書保存期間に従い、書類を処分。整理整頓を行ってきた。

（4）業務の効率化

昨年、勤怠管理ソフト導入し、職員の一括管理に関し一定の成果をあげた。

① 共有のリンクステーションの活用

その場で、必要な情報（様式やマニュアル等々）を共有化できるようにしてきました。（時間と紙の節約）

② インターネットバンキングの活用

窓口に行かなくても、振り込みや手続きを可能としてきました。（時間と手数料の節約）

③ 各種手続きの電子申請

社会保険関係や補助金関係等、電子媒体で行うことで、業務がスピーディーになりました。（時間と紙の節約、修正があっても即対応できる。）

（5）後方支援の役目を担う

規則や規程等の改正に伴い、変更内容について各事業所が理解し、活動し易いよう、従来通り説明会等を開催、後方サポートを行ってきました。

特に介護保険法改正に伴う情報は、適宜、主要部署に情報を提供。

（6）財源の維持確保

① 適切な予算の執行（効率及び効果的にできるよう努める。）

- 業者に頼らず施設内で出来るものは施設内で行い無駄を省く。

（既に自分達でできる業務は、業務委託を止めており、コピー用紙の節約、樹木草刈等の手入れ、タイヤ交換等、細かいものの節約を実施してきた。）

- ・ 施設内ではリンクステーションを活用、外部ではメールでやり取りを行い、時間や配送等の節約をしてきました。

② 補助事業の活用

積極的に次の補助事業を活用してきました。

福島県社会福祉施設等物価高騰対策事業（高齢者施設等）、福島県被災地介護施設再開等支援事業（応援職員等経費負担事業）、福島県結核予防事業、社会福祉法人等利用者負担軽減事業、介護ロボット導入支援事業、ふくしま産業復興雇用支援助成金

(7) 人材確保

人材確保に繋がる取り組みや研修会に参加

<人材確保に繋がる取り組み>

- ・ 広報紙の発行（年2回実施）
- ・ 補助事業を活用しPR活動（随時）
- ・ SNSの発信（随時）

<外国人材活用の研修会に参加>

- ・ 8月10日 特殊技能制度取扱い3事業所のオンライン研修会
- ・ 9月20日 南相馬福祉会へ視察（特殊技能制度の検討）
- ・ 2月27日 外国人材活用セミナー

3. その他

必要時に必要な内容を適宜の事務所内で伝達。また、勉強会を実施してきた。

令和5年度 研修一覧

研修期間	研修者氏名	所属	研修名	研修場所	備考	開催者	内容
4月18日～4月18日	1 日間	佐藤 智恵子	特養 県内高齢者施設等向け新型コロナウイルス感染症対策セミナー	ホーム(会議室)	13:30 ～15:30	県高齢福祉課	いま囁託医師や協力医療機関の医師に求められること、入所者のコロナ診療・療養のポイント 他
4月27日～4月27日	1 日間	佐々木 裕行	特養 令和5年度第1回相双地区特別養護老人ホーム連絡協議会総会	ビックパレット ふくしま	12:30 ～	相双特養連	令和4年度事業報告並びに収入支出決算について
4月27日～4月27日	1 日間	佐々木 裕行	特養 一般社団法人福島県老人福祉施設協議会第8回総会及び施設長研修会	ビックパレット ふくしま	13:00 ～	県老協	令和4年度事業報告並びに収入支出決算 他
4月27日～4月27日	1 日間	佐藤 義幸	特養 一般社団法人福島県老人福祉施設協議会第8回総会及び施設長研修会	ビックパレット ふくしま	13:00 ～	県老協	令和4年度事業報告並びに収入支出決算 他
2月17日～5月19日	1 日間	佐藤 義幸	特養 社会福祉法人会計基準実践的決算講習	ホーム(会議室)	9:00～ 17:00	全老協	決算作業の流れと試算の確認・評価 他
5月19日～5月19日	1 日間	佐藤 義幸	特養 令和5年度社会福祉施設等職員初任者基礎研修	ホーム(会議室)	13:30 ～15:30	県社協	社会福祉施設等の職員としての心構え他
5月26日～5月26日	1 日間	菅野 若菜	特養 令和5年度高齢者介護施設等における感染対策	県看護会館みらい	10:00 ～16:00	県看護協会	高齢者介護施設等と医療機関の感染対策の違い 他
5月29日～5月29日	1 日間	佐々木 裕行	特養 令和5年度 社会福祉法人等代表者会議	ホーム(会議室)	13:30 ～	県社会福祉課	令和4年度監査結果及び令和5年度監査方針等について 他
5月29日～5月29日	1 日間	嶋原 やすえ	特養 令和5年度 社会福祉法人等代表者会議	ホーム(会議室)	13:30 ～	県社会福祉課	令和4年度監査結果及び令和5年度監査方針等について 他
5月29日～5月29日	1 日間	佐藤 義幸	特養 令和5年度 相馬地方防火安全協議会飯館支部総会	飯館村交流 ふれ愛館	10:00 ～	県社会福祉課	令和4年度事業報告・決算、令和5年度事業計画・予算案等について 他
6月1日～6月30日	1 日間	全 体	特養 生産性向上に向けて～今こそ知っておきたい、ICTツール導入に関する基礎知識～	いいいてホーム内	120分	県老協	生産性向上の必要性や、国内に存在するツール・サービスの知識・情報他
6月5日～6月5日	1 日間	齋藤 美波	特養 令和5年度 老人福祉施設職員研修Ⅰ(オンライン研修)	ホーム(会議室)	12:30 ～16:30	県社協	認知症の方をよりよく理解するために～パーソン・センタード・ケアを学ぶ～
6月13日～6月13日	1 日間	浦住 すみい	特養 令和5年度 施設ケアマネ研修会	ビックパレット ふくしま	10:00 ～15:00	県老協	施設ケアマネジメントプロセスを”まるっと・ぎょっと”確認、共有、強化!
6月20日～6月23日	4 日間	橋本 祥	特養 コニットケア研修(実習)	みどりの郷	9:00 ～	日本ユニットケア 推進センター	ユニットリーダー研修実習
6月29日～6月30日	2 日間	高野 拓巳	特養 令和5年度 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 中堅職員研修	県総合社会福祉 センター	10:00 ～16:00	県社協	中堅職員としてのキャリアデザインと自己管理 他
7月19日～7月19日	1 日間	佐々木 裕行	特養 第1回事業者支援セミナー「介護経営セミナー」	郡山安積総合学習 センター	10:00 ～16:00	公益財団法人介護労働 安定センター福島支部	運営指導(前実地指導)対策・介護経営セミナー
7月19日～7月19日	1 日間	佐藤 智恵子	特養 第1回事業者支援セミナー「介護経営セミナー」	郡山安積総合学習 センター	10:00 ～16:00	介護労働安定センター 福島支部	運営指導(前実地指導)対策・介護経営セミナー
6月15日～6月15日	1 日間	菅野 明洋	特養 令和5年度介護施設における安全対策担当者養成研修	ホーム(会議室)	8:30～	全老協	制度説明と目的・他
6月28日～7月31日	1 日間	菅野 若菜	特養 令和5年度介護施設における安全対策担当者養成研修	ホーム(会議室)	8:30～	全老協	制度説明と目的・他
6月28日～7月31日	1 日間	北里 真由美	特養 令和5年度介護施設における安全対策担当者養成研修	ホーム(会議室)	8:30～	全老協	制度説明と目的・他
7月1日～7月31日	1 日間	佐藤 智恵子	特養 高齢者施設における急変時の対応	ホーム(会議室)	130分	全老協	高齢者施設における急変時の対応
7月1日～7月31日	1 日間	井上 祥行	特養 ハルテーション～認知症の方のコミュニケーション法～	いいいてホーム内	106分	全老協	ハルテーション～認知症の方のコミュニケーション法～
7月1日～7月31日	1 日間	嶋原 やすえ	特養 事務長等研修	ホーム(会議室)	90分	全老協	働き方改革に伴う労務リスク他
7月1日～7月31日	1 日間	佐藤 義幸	特養 事務長等研修	ホーム(会議室)	90分	全老協	働き方改革に伴う労務リスク他
7月3日～7月31日	1 日間	嶋原 やすえ	特養 令和5年度 キャリアパス制度理解研修～キャリアパスとは何か～	ホーム(会議室)	9:00～ 17:00	県社協	キャリアパスとは何か・なぜ福祉職員に「キャリアパス」は必要なのか?他
7月25日～7月26日	2 日間	嶋原 やすえ	特養 令和5年度 キャリアパス制度理解研修～機能するキャリアパスを構築し、運用につなげる～	ホーム(会議室)	10:30 ～16:30	県社協	「キャリアパス」を整理する・キャリアパス制度の「全体像」を確認する 他
8月5日～8月5日	1 日間	佐々木 裕行	特養 令和5年度週休三日制導入に関する説明会	ホーム(会議室)	13:30 ～15:30	福島県保健福祉	週休三日制導入支援事業を始めた背景 他
8月9日～8月9日	1 日間	小林 明美	特養 介護事業所のBCP作成方法	ホーム(会議室)	14:00 ～16:00	介護労働安定センター 福島支部	令和6年4月に義務化される介護事業所のBCP(業務継続計画)とは何か 他
8月18日～8月18日	1 日間	細川 美裕	特養 コニットケア新任職員研修(WEB)	ホーム(会議室)	10:00 ～16:00	ふくしまユニットケア 協会	ユニットケアについて

研修期間	研修者氏名	所属	研修名	研修場所	備考	開催者	内容
8月21日～8月21日	4日間	齋藤 美波	特養 令和5年度若手職員と高校生とのグループミーティング	(株)ニチイ学館 相馬教室	15:45 ～16:45	県老協	先輩職員の自己紹介・グループミーティング
8月22日～8月25日	4日間	齋藤 真知子	特養 コニットケア研修(実習)	みどりの郷	9:00～	日本ユニットケア 推進センター	ユニットリーダー研修実習
8月29日～8月30日	2日間	嶋原 やすえ	特養 令和5年度 キャリアパス制度課題別研修【第1回】	ホーム(会議室)	10:00 ～16:00	県社協	新任職員のモチベーション向上のポイント他
8月31日～9月1日	2日間	山口 明子	特養 2023年ユニットリーダー研修	ホーム(会議室)	210分	ユニットケア推進 センター	第6回 ユニットケア施設管理者研修(オンライン) Eラーニング
9月1日～1月31日	20日間	細川 美裕	特養 令和5年度 福島県社会福祉協議会 喀痰吸引等基本研修	いいだてホーム内	8:00～	県社会福祉協議会	実地研修
9月1日～1月31日	1日間	小林 明美	特養 機能訓練計画の立案～ICFの理解と生活動作の診かた～	ホーム(会議室)	90分	県老協	機能訓練計画の立案～ICFの理解と生活動作の診かた～
9月7日～9月8日	2日間	佐藤 義幸	特養 甲種防火管理新規講習	鹿島農村環境改善 センター	10:00 ～17:00	相馬地方広域消防本部	火災の概要・防火管理の意義と制度 他
9月11日～9月11日	1日間	嶋原 やすえ	特養 令和5年度 社会福祉法人事務長等研修会	ホーム(会議室)	13:20 ～16:00	県社会福祉協議会	社会福祉法人に求められる危機管理・カバナンス強化
9月14日～9月15日	2日間	佐藤 義幸	特養 令和5年度 介護職員キャリアパス対応生涯研修課程 初任者研修	県総合社会福祉 センター	10:00 ～16:00	県社協	福祉職員としてのキャリアデザインと自己管理 他
9月19日～9月19日	1日間	山田 義忠	監事 令和5年度 社会福祉法人監事研修	ビックパレット ふくしま	13:30 ～16:00	県社協	社会福祉法人の監事が実施する会計監査のポイントについて
9月19日～9月19日	1日間	佐藤 敏子	監事 令和5年度 社会福祉法人監事研修	ビックパレット ふくしま	13:30 ～16:00	県社協	社会福祉法人の監事が実施する会計監査のポイントについて
9月25日～9月26日	2日間	嶋原 やすえ	特養 令和5年度 キャリアパス制度課題別研修【第2回】	ホーム(会議室)	10:20 ～16:00	県社協	キャリアパス制度運用における人材育成計画の策定
9月28日～9月28日	1日間	木幡 佳代	特養 令和5年度 苦情受付担当者研修	郡山ユラックス 熱海	10:30 ～15:00	福島県運営適正化 委員会	苦情解決制度の仕組みと意義について他
9月30日～9月30日	1日間	北里 真由美	特養 福島県栄養士会2023年度福祉スキルアップ研修会	ホーム(会議室)	13:30 ～16:00	福島県栄養士会	栄養ケアマネジメントを最初から学ぶ
10月3日～10月3日	1日間	佐々木 裕行	特養 令和5年度 社会福祉法人人事研修	ホーム(会議室)	13:45 ～17:00	県社会福祉協議会	財務諸表を読み解き経営に活かす
10月5日～10月5日	1日間	佐々木 裕行	特養 飯館駐在連絡協議会総会	宿泊体験館きこり	10:30 ～	飯館駐在連絡協議会	飯館村内の事件事故概要他
10月10日～#####	2日間	嶋原 やすえ	特養 令和5年度 管理職員ためのプリセプター運用研修【第1回】	ホーム(会議室)	10:20 ～16:00	県社協	事業所の人事管理制度をアセスメントしアクションを考える他
10月13日～#####	1日間	佐々木 裕行	特養 令和5年度 第1回法人連絡協議会	田村福祉会	10:30 ～15:00	法人連絡協議会	各法人状況について、情報交換
10月13日～#####	1日間	佐藤 義幸	特養 令和5年度 第1回法人連絡協議会	田村福祉会	10:30 ～15:00	法人連絡協議会	各法人状況について、情報交換
10月13日～#####	1日間	佐藤 義幸	特養 介護セミナー	ビックパレット ふくしま	14:00 ～16:00	ふくしまユニットケア 協議会	情報共有について勉強したい、介護事故がなかなか減らない、問題点を早期にみつけない
10月19日～#####	2日間	菅野 ゆかり	在介 「令和5年度福島県主任介護支援専門員研修」のファシリテーター	郡山ユラックス 熱海	10:00 ～17:45	福島県介護支援専門員 協会	対人援助者監督指導
10月18日～#####	1日間	真壁 成行	在介 「令和5年度福島県主任介護支援専門員研修」のファシリテーター	郡山ユラックス 熱海	10:00 ～17:45	福島県介護支援専門員 協会	対人援助者監督指導
11月28日～12月1日	4日間	山口 明子	特養 令和5年度ユニットリーダー研修実地研修	茨城県松籟荘	10:45 ～16:20	ユニットケア推進 センター	ユニットリーダー研修実習
12月6日～12月7日	2日間	佐藤 智恵子	特養 令和5年度 介護支援専門員 専門研修Ⅱ(更新・現任)	ホーム(会議室)	840分	県社協	ZOOMによる演習(グループワーク)
12月5日～12月5日	1日間	木幡 佳代	特養 令和5年度 生活相談員研修	ビックパレット ふくしま	10:30 ～16:00	県老協	ソーシャルワーカーとしての基盤について他
12月12日～#####	1日間	浦住 すみい	特養 令和5年度介護支援専門員実務研修(前期)講師・ファシリテーター打合わせ(オンライン)の開催	ホーム(会議室)	13:30 ～15:00	県社協	令和5年度実務研修の日程・概要等について他
12月12日～#####	2日間	小林 明美	特養 令和5年度 介護支援専門員 専門研修Ⅱ(更新・現任)	ホーム(会議室)	840分	県社協	ZOOMによる演習(グループワーク)
12月15日～#####	1日間	佐藤 敏子	特養 令和5年度苦情解決責任者・第三者委員研修	郡山ユラックス 熱海	10:30 ～15:00	県社協	権利擁護における意思決定支援について他
1月12日～1月13日	2日間	佐々木 裕行	特養 令和5年度相双地区特別養護老人ホーム連絡協議会施設長研修	Jヴィレッジ	13:30 ～翌9:00	相双特養連	福島の防災と福祉、令和6年度介護報酬改定の動向と災害時相連応援協定他
1月12日～1月13日	2日間	佐藤 義幸	特養 令和5年度相双地区特別養護老人ホーム連絡協議会施設長研修	Jヴィレッジ	13:30 ～翌9:00	相双特養連	福島の防災と福祉、令和6年度介護報酬改定の動向と災害時相連応援協定他
1月16日～1月19日	4日間	木幡 佳代	特養 令和5年度 介護支援専門員 実務研修(前期)	ホーム(会議室)	9:00～ 17:00	県老協	Zoomによる演習(グループワーク)

